認知症ケア支援VR

FACE DUO

User's Voice vol.39

医療法人社団 敬成会 白根緑ケ丘病院



白根緑ケ丘病院は、新潟市の指定の「認知症疾患医療センター」です。

認知症専門医療の提供と介護サービス事業者との連携を担う地域の中核機関として ❶専門医療相談 ❷鑑別診断・治療方針の選定 ❸周辺症状・身体合併症への急性期対応 ❹地域の保健医療・介護関係者への研修・連携に取り組んでいます。

FACEDUO導入のきっかけ



理事長 院長
佐野 英孝 先生

当法人では、職員向けの研修において、認知症のある方への理解を深めることを目的に、FACEDUOを導入しました。認知症ケアでは知識を学ぶだけでなく、本人視点に立って気持ちを理解することが重要です。そのため、感情を疑似体験できるFACEDUOに注目し導入・活用する事としました。

これまでの課題
「頭では分かっていても、認知症のある方本人の気持ちまでは想像しにくい」。職員ごとに経験が異なり、共通の場面を題材に語り合う機会も少ない。

→

FACEDUOの導入
認知症のある方の困りごとを描いた映像を、職員全員がVRで視聴・体験。本人の視点・感情を疑似体験できる。

→

研修での効果
同じ場面を共有して話し合える。振り返り（アウトプット）と本人視点の学び（インプット）が両立し、現場のケアに直結する。

職員研修で、VR体験・意見交換を実施

白根緑ケ丘病院の職員研修にて、認知症のある方の視点を疑似体験するVR動画を題材に意見交換を実施



1 VR視聴 状況を理解する

2 意見交換

3 VR視聴 ケアの工夫を学ぶ

体験後の意見交換で寄せられた職員の声

- 「患者さんの気持ちや目線、感情がよく分かり、介護者としての対応を学ぶことができた」
- 「患者さんの視点から見るということを、実際に手軽に体験できるのが良かった」
- 「個々の健康のことや家庭での過ごし方を引き出し、落ち着いて話しかけることが大切だと感じた」
- 「スタッフ、利用者双方の立場になってみることができ、今後のケアの参考になった」
- 「幻視などの症状を体験できるので、今後の看護に活かせる」

実践を通じて見えてきたこと

研修を通して見えてきたのは、「体験を伴う学びが、理解の深さを大きく変える」ということです。職員からは「没入感があり、スライドを見るだけよりも認知症のある方本人の気持ちに近づけるような感覚だった」「平面で見るよりも立体的に見ることで、現実に近い感じで体験できて良かった」「リアリティのある画面で体験できて良かった」といった感想が寄せられました。さらに、「認知症のご家族にも体験してもらいたい」「地域のお茶の間でも活用できそう」といった声もあり、職員研修にとどまらず、ご家族や地域へ広げていく可能性を感じる機会となりました。





FACE DUO 認知症ケア支援VRコンテンツ紹介



● 認知症の症状理解



場面体験

介護者が戸惑った場面を、家族の目線で体験。



症状の理解

場面を振り返りながら、認知症の症状について、VRドクターが紹介。

記憶の障害／見当識の障害／遂行機能の障害 など　5つの症状を紹介



リラックス練習

セッションの最後に行います。実写の美しい風景の中で呼吸法やストレッチ方法を実践練習します。

全国の医療機関で導入頂いています

▼詳細はこちら

導入施設一覧に繋がるQRコード

● 認知症の方の行動理解



場面体験

介護者が戸惑った場面を、家族の目線で体験。



行動の理解

同じ場面を認知症の方目線で体験し、行動の背景にある気持ちに気付く。



工夫の発見

今回の行動に対して、関わり方の工夫を発見する。



工夫の実践

工夫の実践を、認知症の方の目線で体験する。

● レビー小体型認知症の症状理解　＼ニューリリース!／

幻視・錯視を疑似体験



＋

VRドクター解説



レビー小体型認知症の方の
視点で症状が出現した場面を体験する。
症状の出現だけでなく、
認知症の方の心の声や介護者の対応も再現。

幻視・錯視を疑似体験 → 当事者の不安を理解 → 適切なケアのポイント習得

詳しくは公式サイトにて

faceduo　検索

販売 Otsuka　開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年10月作成
FD2610001

FACEDUOは非医療機器です。